

お菓子のグラフィック・デザイン

A2200818 鈴木 千香子、A2200821 高橋 絵梨、A2200824 長澤 沙知

【研究の概要】

(株)太郎庵の新しい包装紙(ビニール袋、紙袋、洋菓子用の包装紙、ケーキ用の箱)のデザインと、夏季限定に販売するゼリーと水羊羹と黒豆美人(黒豆ゼリー)の詰め合わせのパッケージデザインを作製する。黒豆美人に関しては一年を通して使えるようなデザインと夏季限定のもの二パターンを考える。

【研究目的】

(株)太郎庵にお話を伺った際に、様々な問題の中から以下の問題を取り上げ、私達は包装紙(ビニール袋、紙袋、洋菓子用の包装紙、ケーキ用の箱)・夏季限定に販売するゼリーと水羊羹と黒豆美人の詰め合わせと、一年を通して使えるような黒豆美人のパッケージデザインを作製することにした。

問題点

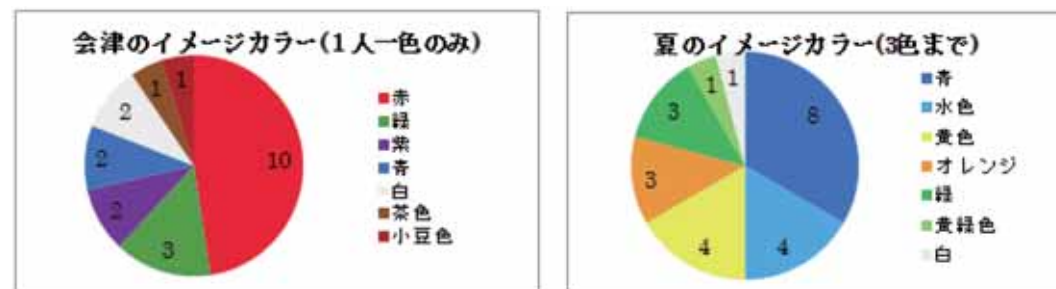
- ・包装紙のデザインは和菓子用の雰囲気があるので、洋菓子の包装紙には合わない。
- ・また、洋菓子を入れる袋は既存のものなので太郎庵のロゴが入っておらず、太郎庵らしさが感じられない。
- ・少ない商品を購入した際に入れる袋が手提げなしの紙袋しかなく、紙袋とビニール袋に入れて持ち帰る人もいる。
- ・夏季限定で販売されているゼリーのパッケージデザインにも統一感がないという問題がある。
- ・黒豆美人は元来若い人向けに販売されたものだが、パッケージ自体が年配の方向けのように思われる。

これらの問題は太郎庵側の要望であり、これを店側が改善すると客の要望に合わない可能性がある。そこで、この機会を生かして私達第三者が改善し、店側の要望と客側の要望を一致させたいと思った。今まで授業で学んできたことを応用し、今回これらの問題を卒業研究のテーマとした。

【研究内容】

9月18日に、七日町の太郎庵支店の付近で、会津のイメージカラー・夏のイメージカラー・太郎庵のイメージカラー・現在の太郎庵の包装紙と黒豆美人のパッケージを見た感想21人に街頭調査を行った。結果は以下の通り。

回答者《高校生:男3人,女4人 20代女性:2人 中年の方:男2人,女4人 高年の女性:6人》…計22人



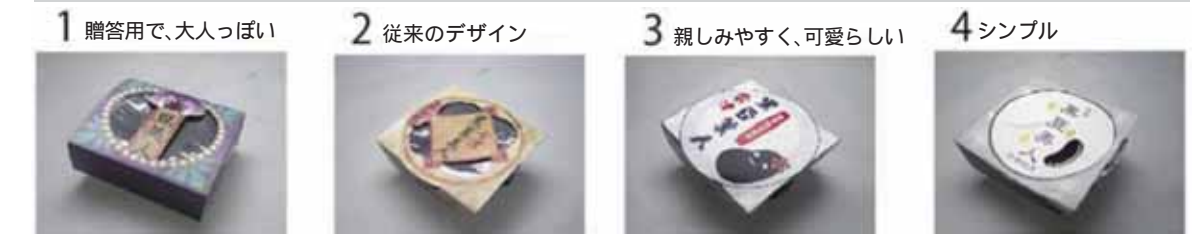
会津のイメージカラーは順に「赤・緑・紫」と多く、夏のイメージカラーは、順に「青・水色・黄色」と多かった。現在の太郎庵の土人形や草花の包装紙の感想は、親しみやすく変えなくても良いという意見が多かった。黒豆美人を見た感想は、いいデザインだが若い人向けのデザインではないので、もっと明るいデザインでも良いという意見があった。

黒豆美人のアンケート結果の問題点をもとに新しいパッケージのサンプルを作り、10月19・20日に会津大学短期大学の女性に新たなアンケートを取った。結果は以下の通り。

回答者《10代:82人 20代:22人》…計104人

太郎庵を利用する頻度			太郎庵を利用する目的		
	10代	20代		10代	20代
利用しない	15人	5人	自分のために買う	15人	5人
1年に1回	43人	9人	友達や友人のためにお土産として買う	43人	9人
1ヶ月に1回	22人	8人	目上の方への贈り物として買う	22人	8人
1週間に1回	1人	0人	その他(お誕生日ケーキ)	1人	0人

サンプル(本物を含む)を見た感想 年代ごとに一番評価の高かった番号を記載



	10代	20代
贈り物にするなら?	2番	2番
自分で買って食べるなら?	4番	4番
親しみやすいデザインは?	3番	3番
夏のお中元に贈るとしたら?	1番	2番
この中で一番気に入ったものは?	4番	4番

この結果から、10代・20代の方は目上の方への贈り物として買うより、自分・友達や家族へのお土産として買う傾向があることがわかった。

以上のことを踏まえ私達で話し合った結果、

太郎庵のシンボルマークであるランタン()を基調とし、お客さんに一目で太郎庵の商品であるとわかるようにデザインすることにした。

ランタンの由来は、太郎庵の出発やお菓子にかける情熱を意味している。そしてランタンの炎は、お菓子でお客さんの心を温かくする、また会津で暮らす人たちの温かさを表している。



ビニール袋、紙袋	太郎庵らしさを出すために、太郎庵の雰囲気合った色を取り入れる。和・洋菓子どちらにも使用できるようにする。ビニールに関しては観光用にも使用すること、もう一度使用したくなるようなデザインを意識する。紙袋は、ビニールを使用しなくても良いように穴を開けて取っ手を作る。
洋菓子用の包装紙、ケーキ用の箱・ビニールの袋	ケーキの箱や包装紙は上記のビニール袋・紙袋と同様に、太郎庵の雰囲気合った色を基調にする。その中でも、食べ物を含む際には暖色系がおいしそうに見えるのでケーキの箱や包装紙には暖色系の色を取り入れる。また、「洋」らしさを出すために、太郎庵のロゴはローマ字のものを使用する。
夏季限定に販売するゼリー等の詰め合わせのパッケージデザイン、一年を通して使えるような黒豆美人のデザイン	ゼリーの詰め合わせに入れる黒豆美人や水羊羹を他のゼリーと詰め合わせても違和感のないデザインにし、さらに水羊羹に関してはこしあんかつぶあんが一目で区別が出来るデザインにする。通年販売する黒豆美人は若い女性にも気軽に手に取ってもらえるような親しみやすいパッケージにする。

【制作工程】

どの問題を担当するのかを決め、作業がスムーズに進むようにした。

ビニール袋、紙袋 鈴木 千香子

洋菓子用の包装紙、ケーキ用の箱・ビニールの袋 長澤 沙知

夏季限定に販売するゼリー等の詰め合わせのパッケージデザイン、
一年を通して使えるような黒豆美人のデザイン 高橋 絵梨

	製作工程
ビニール袋、紙袋	<p>コストが安くなるように、最大2色まで使用することにした。この2色は、太郎庵のランタンの炎をイメージさせる「赤」をから関連する温かく深みのある「深緋」と、太郎庵の店内で感じた暖かい雰囲気からの「代赭」にすると決めた。</p> <p>ビニール袋・紙袋は和・洋どちらにも使用できるように、見方によっては風であったり、会津の山々だったり、水田であるような抽象的なデザインを取り入れることにした。また、裏表でつながっているデザインにし、人と人のつながりを表現した。また、ビニール袋が、観光用にも使用されることを考え、観光に来た人に太郎庵のイメージを持たせるようにランタンがアクセントになるようなデザインにした。さらに、日常生活でも使用できる上品なデザインにすることで現在問題になっているエコの問題にも配慮したデザインを目指した。</p>
洋菓子用の包装紙、 ケーキ用の箱・ビニールの袋	<p>上記と同じく、コスト面を考えて一色だけを使うことにした。ベースの色は太郎庵のランタンの炎をイメージさせる「赤」から関連する、温かく深みのある「深緋」という色を使用することにした。</p> <p>包装紙は素材の色を生かした白を基調とするシンプルなデザインにし、より「洋」を感じさせるために、イラストにしても線にしても線を細く華奢なものにして独特の高級感を感じさせるものにした。太郎庵のイメージや温かみを消さないために、ランタンや太郎庵のローマ字のロゴ、太郎庵にあるステンドグラスをイメージしてクロスを取り入れたデザインにした。</p> <p>ケーキ用の箱は、全体的に「深緋」を取り入れ、食べ物が入っていてもおいしそうで温かいものに仕上げた。ケーキの箱は、全体を一色で塗りつぶしてしまうと重たい感じになってしまうため、正面と背面のベースを白にしてすっきりとさせた。一目で太郎庵のケーキだとわかるように、ランタンのイラストを大きく配置し、シンプル且つ目立つデザインにした。ケーキの箱を入れるビニール袋は、中の箱のデザインや色が見えるように半透明にし、側面にはビニール袋にケーキの箱を入れるとビニール袋のロゴが浮かび上がるようなデザインにした。</p>

	製作工程
夏季限定に販売するゼリー等の詰め合わせのパッケージデザイン、 一年を通して使えるような黒豆美人のデザイン	<p>夏季限定のゼリー詰め合わせのパッケージデザイン・・・ 全体的に統一感がないため、統一感のあるデザインを目指した。ゼリーのデザインは商品の目的に合っていたのでそれを生かして、黒豆美人や水羊羹を作成した。</p> <p>一年を通して使えるような黒豆美人のデザイン・・・ 若い女性に黒豆をもっと食べてもらいたいという要望で作られたお菓子なので、若い人向けのパッケージを目指した。この商品は仏事にも使用されるお菓子でもあるため、試行錯誤をして制作に取り組んだ。</p> <p>最初は花を用いて可愛らしさを追求していたが、シンプルさで可愛らしさを表現するという方向になり、また私が考えすぎてしまい、仏事用のデザインに偏ってしまったり思考が止まってしまったりと苦労が絶えなかった。また、常に黒豆「美人」という名前から美しさを追求したデザインにすると太郎庵の親しみやすさや暖かさにかけてしまい、そのギャップをどう埋めるかという問題があった。</p> <p>そうした問題を考え、時にはぎりぎりになってデザインを1から考え直す等という作業をしつつやっと完成することができた。</p>

【考察と感想】

一つの企業のイメージを理解するために、「他の企業と差別化する何か」を調査して、その企業の短所を発見し改善する作業を行った。その結果、太郎庵のイメージカラーやどういった雰囲気のデザインにするのかという方向性が決まった。また、太郎庵の全体的なデザインは創業当時に太郎庵を支えた横田新さんのデザインを多様しているため、七日町通り店にあるギャラリーに足を運び、作品を見てくることで今回の制作に生かすことが出来たと思う。

太郎庵の常務と何回か話し合いをした中で、コストについても考える必要があり、包装代を抑えることでいかにお客さんに安く提供できるかが重要であるかということを知った。そのため、和洋の包装紙は2色刷りにし、低価格の物を制作した。

太郎庵の雰囲気を包装紙やパッケージのデザインを通して伝えるには、会社の歴史や企業イメージ、実際に売られているお菓子のデザインや、店内の雰囲気、お客さんの店に対するイメージといった多くの情報を知り、理解しなければならないということ学んだ。また、この研究を通して様々なパッケージを調査し、見ることによって、お菓子を魅せるデザインとはどんなものかを学ぶことが出来た。

この2年間の締めくくりである卒業研究に、会津に親しみのある太郎庵というお店に少しでも貢献できる研究が出来て本当に良かったと思う。これからもこの研究を生かして、人にデザインを通してなにかを伝えられるような作品が作れるように取り組んでいきたい。

